

女性自立・収入向上

マロン等伝統衣装用の生地を手織りするチボリの女性が増加

昨年12月、スタディツアーでタブロ地区を訪ねた時です。民家の軒先で鮮やかな赤い糸を機にかけて手織している女性に出会いました。このタブロ地区は、ティナラクの熟練織手の工房が多いと聞いていて、実施中の緑の募金事業モニターも兼ねて、織の現場を見せてもらうことになっていました。実際にそのあと、ティナラク織も見ましたが、ティナラクの村タブロで、通常の機織りも増えているという情報は新鮮でした。

確かに、前日に訪ねた SCMSI 校では、週1回の民族衣装を着用する日ということで、男子のティナラク織ベストを除くと、女子の巻きスカート・マロンも男子の頭に巻くトゥバウも、色とりどりの化繊の糸を手織したものです。1,700人ほどの児童、生徒が着用するとなれば、学校は大きな市場です。

元 COWHED マネージャーで、今は手芸材料等を扱う店を経営しているジェマさんの最近のメールにも、最近この Loom Weaving と呼ぶ機織りをする COWHED 組合員が増えて、材料の糸がすぐ品切れになるとありました。マロンやトゥバウの需要が増える中、難しいティナラク織より、比較的短期に習得できる機織りの人気が出てきているのも理解できます。

この機織りを副業とする女性が増えているのは、今年3月の DTI (Department of Trade & Industry/通商産業省)による COWHED の活動支援プロジェクト(写真)とも関係がありそうです。3月末に COWHED を訪ねた時には、この DTI 支援によるという真新しい手織機が店内に設置されているのを見ました。

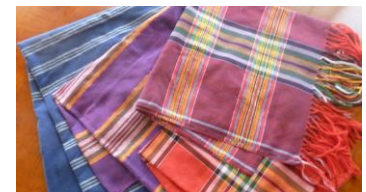
250名を超えと思われる組合員の大多数は、ティナラク織ではなく、単価の安いビーズ制作等に関わっています。ビーズ作りより有望な手仕事として、機織りは組合員の間で一層広まるかもしれません。



織手(中央)に頼んで織機の前に座らせてもらった通訳のマリンさん



「DTI 支援 COWHED の手織及び真鍮細工プロジェクト」と書かれた横断幕の前で



手織マロンやショールは、イベント出店時、私たちのブースを華やかにしてくれます

ビラーンの伝統織ナバルタビのグループ NTP の現況

ジェネラルサントスに隣接するポロモロック町の中心部から、40分ほど車で行くと、2006年に松尾基金により私たちが支援した「織の家」に着きます。ナバルタビ織など、ビラーンの伝統技術継承と女性たちの収入向上事業の拠点で、NTP(Nabal Tabih Production)が管理しています。

研修生ジェネリンさんが夫の急死で継承者リストから外れた結果、NTPは、中堅織手のソーニャさんとアナリンさんの2名とNTP創立者のノノバートさん、スヌーリア(元HANDS奨学生)などが主なメンバーです。9月初め、そんなNTPに今度、新たに2名のナバルタビ織手が加わることになったという嬉しいニュースが届きました。うち、1名は、今は亡き名手サンダワさんの織を継承する女性だそうです。

私たちがNTPから購入する織は年間5本(各5m、600ペソ/m)ほどです。宣教師であるノノバートさん経由で、アメリカでも多少売れますが、最大の顧客は当会です。子どもが多いソーニャさんからは、学期初めなどにはNTPを通じて、前払いの依頼がきます。ビラーンの伝統技術継承と織手の収入向上のために、今後HANDSはどう関わられるかを探るために、11月訪問時には4年ぶりに「織の家」を訪ねる予定にしています。

ムスリム地区女性の収入向上 -CVOと薬草入り石鹸

繊細な作業のため、まずは限られたメンバーで製造しているというココナツバージンオイル(CVO)作りについて、PIHSは有力な収入源として大変期待しています。また、ブラコンでは、このCVOを薬草入り石鹸作りで使用することで、商品価値を高めています。PIHS事業地域の各ヘルス組合が購入して、ヘルスポストに並べる等、今は関係地域での需要で十分の売り上げを伸ばしています。

ブラコンでは、石鹸、ヤシ屋根作り、その他ビラーン伝統のビーズ細工等で、ヘルス組合財源と同時に、各組合員の収入向上を図っています。(WE21 ジャパンみどり助成)

